

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770500361		
法人名	医療法人社団 慈泉会		
事業所名	グループホーム ひもろぎの園(1階ユニット)		
所在地	福島県白河市関道川前88		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安心して自分らしく生活ができるように、職員がその方の個性や想いを理解して日々の支援に努めている。本人の状態などを毎日の申し送りや毎月のフロアミーティングで話し合ったり、必要があれば随時ケアカンファレンスを行い、その方の支援を統一して混乱のないように努めている。またご家族には毎月担当からのお手紙を書いてホームに中々来れないご家族にも近況がわかるようにしている。新聞も毎月発行し、写真を交えて入居者がどのように生活しているかをわかりやすく伝えるようにしている。入居者の家族会を作り年2回ご家族と一緒に食事をしたり、家族会総会で1年間の活動報告などをしてご家族からの意見を伺っている。認知症カフェや安心メイトの実習の受け入れなど外部とも積極的に連携し、認知症の理解の普及に努めている。入居者やご家族とアットホームな関係を築けるように職員一同支援するように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験豊富なベテラン職員がいる事や今までの経験を活かしながら入居者のケアを行うにあたり職員間での話し合いを行う事でケアの方向性が統一できている。また、行政や地域との繋がり・連携も図られており地域住民に施設全体の機能を啓蒙するために見学者などの受け入れを積極的に行ったり、地域行事が行われる際には声掛けをもらったりと地域との協体制が取られている。年2回開催されている家族会では入居者も含め食事の準備から配膳を行い一緒に食事を取りながら現状把握に取り組んでいたり、遠方で面会に来れない家族に対してはこまめな電話連絡を行ったり新聞を郵送したりと連絡をたやさない働きを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業者としての意義を踏まえ、職員同士で話し合い、ホーム理念を作っている。日常の支援やミーティングなどで理念を念頭において職員同士で話し合い、入居者の支援に努めている。	職員一人ひとりが理念を理解しているが、支援に対し方向性がずれていないか年1度確認を行っている。入居者のしぐさや表情から思いを汲み取る努力を行っていると言われた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体で行つ年間行事(花火大会や秋祭り等)では地域の方々に参加して頂いている。また、防災訓練には地域の方と一緒にいたり、毎日地域のスーパーに買物に行ったり、近所を散歩したりと交流ができるようになっている。	地域の行事に積極的に参加したり、回覧板を届けに行ったりしている。近所を散歩している時などや地域のスーパーなどに買い物に行ったときなど声をかけられることも多いという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェにスタッフが参加し、相談を受けたり、介護相談員向けにGHの取り組みなどを伝えたり、安心メイトの実習を受け入れ認知症の方の対応などを説明したりしている。また、今後認知症サポーター養成講座を学校向けに行う為に市役所と連携をして		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各委員を招き、年5回会議を実施している。入居者の状況、ホームでの行事をスライドショーで具体的に紹介し各委員からの意見交換を行っている。GH南湖と合同の勉強会を行い、GHの取り組みの理解に努めている。	区長が町内の行事等の情報会議の場で提供してくれたりしている。そのことで、入居者が、地域の行事に参加する機会が増えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課と連携し、認知症キャラバンメイトの研修を受けたり、安心メイトの実習や市からの協力依頼で定期的に認知症カフェに専門職として参加し、相談に乗ったりと協力関係を構築している。	市からの依頼で認知症サポーター養成講座の講師に招かれたり見学者の受け入れを積極的に行っている。認知症カフェに伺い専門職として相談に乗れるように対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての勉強会や、ホーム内での勉強会を通して身体拘束の理解に努め、入居者の支援に繋げている。日中も施錠はせずに見守りや同行することによって身体拘束をしない取り組みをしている。	職員が身体拘束に関して理解しており外にできるようとする入居者には一緒に散歩をする方法を取って拘束しないケアができています。言葉の中でも拘束にあたらないように注意を払っているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を毎年ホーム内で開催し、高齢者虐待に関する理解と知識を深めるように努力をしている。日頃は、全体ミーティングやカンファレンスを通して職員間で話し合い、虐待が見過ごされないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の認知症リリーター研修に職員を出席させる等、関係する研修会への参加により制度への理解を深められるよう取組みを行っている。また、各種ミーティングやケアカンファレンスなどで日常支援に反映させるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や、入居前、契約時などに家族に説明し、疑問点があればそれ以外でも連絡してもらうなどホーム利用にあたっての不安を解消し理解を深めてもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で年2回集まる機会を設け、家族との関係性を保てるように努め、家族会総会においてホームの事業報告や収支を報告し、家族との意見交換を行い、運営に反映させている。また、面会などに本人の状態報告を踏まえ、話しを聞いている。	家族と連絡を密に取りながら状況報告を行ったりすると同時に家族の意向の確認を行っている。家族会議の場で入居者に必要な物を検討し、購入の際には家族会費からも負担することもあるなど協力合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している全体ミーティングや毎日の申し送りを利用して、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。法人全体の内容については主任者会議や所属長会議を通じて職員に伝達をしている。	管理者と職員とのコミュニケーションが充分に取れており必要な申し送りやミーティングにおいて共有したり検討する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活環境を踏まえて、雇用形態を検討したり、勤務時間を考慮している。また、職員の都合や希望に配慮しながら、柔軟なシフト作りを行い、負担の軽減を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人やホーム内の勉強会を開催し、職員の質の向上に努めている。また、GH連絡協議会が開催する講習会などに職員が参加できる機会を確保できるように配慮している。新人スタッフにはプリセプター制度を導入し、相談が出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地域グループホーム連絡協議会への総会、会議、研修会等への出席により交流や情報交換を行っている。また、管理者が県南地区の研修副委員長を務め、同業者間での交流や質の向上を目指す支援もしている。GH交換研修で相互訪問の機会を		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する以前にご本人の生活歴を確認し、ホームでの生活がよりよいものとなるようスタッフ一人ひとりが周知し、ご本人、御家族の望むこと、思いに添えるよう統一したケアを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族に話しを伺い、不安なことや困っていることなどの情報を確認し、スタッフ同士で話し合い、共有することによって同じ目標に向かい統一したケアに努めている。又、ご家族に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり、ご本人や御家族が困っていること、望むことを見極め、スタッフ間で話し合い、場合によっては専門職へのアドバイスをもらいながら支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の持っている、能力を伸ばし、その日の体調や気分も考慮し、暮らしを共にする、者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、御家族に手紙を書き、ご本人の近況を報告している。又、家族会や行事など、声を掛け、参加できる場合には一緒に過ごしていただいている。外出や病院受診でもご家族に相談し、出来る限り同行してもらい、ご本人の状況を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月自宅へ出掛け、手入れをしたり、馴染みの美容室へ行ったり来てもらったり、行きつけのお店で買い物を行なう等、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。	入居後も通っていた美容室や医療機関にもいけるようにしている。また、入居者がなじみの美容室にいけなくなった際には美容室の方がホームに来て髪の毛のセットをしてもらえるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性、性格を考慮し、入居者同士が、良い関係を築けるように、職員が見守りし、声掛けし一緒に活動したり、食席を配慮したりと、工夫をしている。又、1階、2階合同の、誕生会や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからもその後の経過を確認し、必要に応じてフォロー、相談に応じるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人のそれまでの暮らし方を尊重しながら、御本人の気持ちや体調・こだわり等に合わせて生活をして貰える様に職員間で話し合いを行い御本人の行動・表情・仕草を観察して入居者の気持ちに近づけていける様に努めている。	入居前の情報や日常の入居者の行動を把握し本人にあった活動の場を提供するが、興味を示さないときは無理に誘うことはせず興味を示すまで待つなどの対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御本人の生活歴や馴染みなどを確認し入居後もホームで生活していく中で会話から御本人の暮らし方を伺い出来るだけ以前の様な馴染みの暮らしに近づける様にアセスメントしフロアミーティングを通じて統一出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人がホームで生活をしていく中で生活リズムを把握し、好きな事、やりたい事出来る事等が継続して出来る様にフロアミーティングやカンファレンスを行い職員間の情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中でご本人の状態を確認し、ミーティングなどで話し合っている。必要に応じて他専門職の意見も聞き、ご家族にも相談や報告をしてケアプランに反映できるように努めている。	職員間での意見、情報交換が行われておりチーム一丸となって計画を作成しており計画の見直しもできている。しかしモニタリングの内容がケアプランに反映されているが結果の達成度が確認できなかった。	モニタリング票からのケアプランへの反映は出来ているがモニタリングを行った際結果の記入を直ぐに行った方がよいと考える。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態を確認し、問題点や気づきがあった場合や、取り組みを行った様子などを記録に残してその結果を職員間で話し合い、今後の対応やケアプランの見直しなどに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣近する老健の看護師、医師、リハビリスタッフ管理栄養士等にも協力を仰ぎながらその意見を参考に様々な問題の解決を目指す工夫を行っている。御家族の対応が出来ない場合はホームで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者としての参加や行事への招待、防災訓練への地域住民の参加等を通して交流を行う事で、一員として入居者を支えて貰える様努めている。又、近隣小学校への運動会や関山の山開き等参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望を確認し、入居前のかかりつけ医を継続したり協力医療機関に変更したりとその時に応じて対応している。受診はご家族に協力を得たり、ホーム対応の際は、受診結果を報告するように勤めている。	基本的に受診は家族にお願いし連絡シートを用いて日頃の状態や血圧を主治医に伝えている。受診結果についても家族より聞き取っている。職員が付き添った場合には受診結果について家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の身体状況や生活の中で変化がある際にはホーム看護師や老健看護師、連携看護師に相談し、助言を頂いたり、必要に応じ受診したりと、協力関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族、かかりつけ医、医療機関相談員と蜜に情報交換を行いご本人、ご家族の不安を軽減するように努めている。入院中も面会に行き情報交換を行い、老健PT等に相談し、ホームに戻れる環境作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を入居時に確認し、状態が悪化してきた際は、看取りについて何度か話し合い、他関係機関と協力して穏やかに最後を迎えられるように、連携して支援していけるよう取り組んでいる。	現在重度化の入居者がいた。家族との話し合い、主治医への相談を行い地域での往診を行ってもらえる機関との連携を図り協力体制をとることができた。家族が満足できる看取りを行いたいとのことである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で年2回合同の防災訓練をし、その際に心肺蘇生や消化訓練等の取り扱いを学ぶと共に、ホームでも定期的に、夜間想定避難訓練や急変時の対応等行ったり、又災害用伝言板にてスタッフの安否確認を行い、急変や火災発生時に対応できるように、定期的に避難訓練や急変時訓練を行い、非常時に適切に行動できるように取り組みを行っている。法人の防災訓練には地域の人達にも参加して頂き非常時に協力してもらえるように呼びかけ、地域との体制を築いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や急変時訓練を行い、非常時に適切に行動できるように取り組みを行っている。法人の防災訓練には地域の人達にも参加して頂き非常時に協力してもらえるように呼びかけ、地域との体制を築いている。	法人施設と共同で年2回の避難訓練のほか毎月避難訓練を実施している。また、備蓄品についても法人全体で内容を検討し十分な備蓄品の確保を行っているところである。	備蓄品は十分であるが、期限が切れないよう、グループホームでの食事などにも活用してほしい。非常階段のスペースは十分であるが備品があるのでその保管場所を検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの個性、特性に合わせて、同じ目線で口調や言葉遣いに気をつけて会話するようにしている。また、身振りや手振り、筆談などを交えて、難聴や失語などがある方にも分かりやすいように話すことを心がけている。	呼びかけを行う際姓で読んだりせず入居者に合わせた呼び方を行ったりそのときの機嫌に合わせて対応を変えている。入居者の意向を尊重し言葉使いなどの対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の着替えの際にも自分で服を選び、季節や天候、場所にあった服装が出来るように支援するなど、本人の自己決定を尊重している。また、買い物や外出の希望があった際には、出来るだけ本人の意向に沿った形で出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく家で暮らしていた様に、本人の生活の流れにあわせて起床から食事、入浴を行っていただいている。また、一人一人の希望を大切にして、食事の準備や買い物、余暇など楽しめるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容室に出掛け、カットや毛染めを行ったり、毎日化粧をする方には自ら化粧をすることが出来るように、化粧の順番を考えたり、出来ないところは手伝って一緒に行ったりと、いつまでも自分で身だしなみを整えられるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの畑で季節の野菜と一緒に収穫したり、スーパーに買い物について食材を選んだり季節の食材に触れる機会を作っている。また、本人の残存能力に合わせて、食事の準備を一緒に行なっていただき、作る楽しみ、味わう楽しみを分かち合う工夫を行なっている。	昼食のコロッケを作る際の下準備を行ったり他の副菜を盛り付ける姿が見られた。数日前つけた漬物もあり食事の会話が弾んでいた。食後は下膳を協力し合いながら行い洗浄、拭き取りの姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれの状態に合わせて食事状態や水分摂取量を調整している。また、食事量の確認が必要な方にはチェック表にて状態を確認し、主治医に報告や管理栄養士に報告して状態を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの状態に合わせて歯ブラシや歯間ブラシを使用し、また、必要に応じて介助するなどして口腔内の清潔が保てるようにしている。義歯は夜間は預り、ポリドントで洗浄、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活や排泄のパターンに応じて声掛けやトイレ誘導を行ない、自分でトイレで排泄できる為の支援を行なっている。また、出来るだけ自分でトイレに行き、排泄が出来るように誘導などを工夫している。	入院時オムツ使用だった入居者がいたが退院後より排泄パターンを確認しながらトイレ誘導を数ヶ月行ったことにより日中は綿パンツへの移行ができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分摂取を促したり、便が出にくい方には朝にきな粉牛乳を提供し排便を促している。また、排泄のパターンをスタッフで共有し、スムーズにトイレに行き、排泄が出来るようにスタッフ間で連携して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の健康状態を確認しながら、出来るだけ本人の生活パターンにそった入浴が出来るようにしている。また、ゆず湯のように季節感をとり入れたり、好みの香りの入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめる工夫を行なっている。	入居者の希望の時間に合わせ入浴が行えるように対応している。長湯を希望する入居者にはのほせないように注意していることであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇の時間は活動を促すだけでなく、活動状況に応じて疲労感見られるときなどには居室やソファなどで休息を促したりしている。また、昼寝をされる方には安心して休んで頂ける様にプライベートを確保するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携シートを作成し職員全体が入居者がどの薬を内服しているかを把握できるようにしている。また、内服薬の変更があった時には申し送りを通して全職員に分かるようにしており、内服方法の統一、確認作業の徹底など、内服ミスの起こらないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に合わせて、お手伝いをさせていただいたり、余暇の時間に、趣味を生かして、カラオケ、散歩、習字、縫い物を行ったりと、本人の楽しみが、継続出来るように、取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の、希望を聞きながら、買い物、散歩等に行っており、家族の協力のもと、自宅外出、自宅外泊をしている。又、バスハイク、運動会、初詣等、外に出れるよう、積極的に支援している。	毎日買い物のとき数人の入居者が買い出しに行っている。外出支援は入居者の希望を取りながら外出を行っており集団での行動を嫌がる方については個別対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族、御本人から預かっているお金は、ホームでお小遣いとし、保管し買い物等の際にお金を持って行き、使用している。又、自分で所持したい方については、所持してもらい、買い物時に使えるように、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族には、毎月職員から、生活の状況を、手紙に書いており、中々面会に来れない御家族の方にも、本人の状態が、分かるようにしている。又、暑中見舞い、年賀状を、本人に書いてもらったり、電話をしたりと、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者が親しみやすいように季節感に合わせた飾り付けや入居者の習字や写真等を飾り、家庭的な雰囲気を出すように心掛けている。又、台所は対面型で開放的になっており、会話を楽しみながら食事の準備が行えるように工夫している。	施設内には入居者の作品(習字、暖簾)が掲示されたり飾ってあった。季節感を感じる雰囲気が見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやロビーにはテレビやソファを設置したこたつスペースがあり、入居者同士でくつろげるように配慮している。また、食席も入居者同士が会話ができるように環境整備を行ったり、一人ひとりが安心して過ごせる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に御家族や御本人と相談し、使い慣れた家具や装飾品を持参してもらい、馴染みのある居室になるように配慮している。入居してからの居室がわからなくなるないようにドア前に名前を貼り、季節の飾り付けをしたりと工夫している。	居室は入居者の個性が感じられておりベッドの向きなども違っていたりなじみの家具も配置されていた。居室内で植木を育てており毎日植木を外に出し陽に当てるなど自分のペースで世話をしている方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	植木の手入れ等外仕事を行うこと好きな利用者には自分で行って頂き、落差がある場所につい立てや注意書きを設けるなどしてスタッフの声かけや目視を行い、自分で気付けるように安全確保に努めている。		